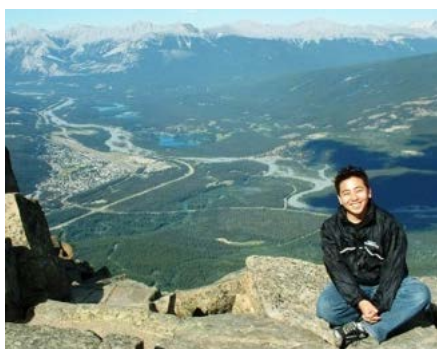


第 40 回日本語教育学講座講演会

Reading English with Japanese in mind:

眼球運動による日英バイリンガルの英単語認識プロセスの検討



この度、過去2年間、名古屋大学で英語の非常勤講師をして頂いた三輪晃司(MIWA, Koji)先生が、今年度を最後にドイツのチュービンゲン大学へ研究員としていくことになりました。つきましては、2015年1月20日の火曜日の6限目(午後6時15分から午後7時45分まで)講演をお願いすることになりました。内容は、国際的にレベルの高い *Bilingualism: Language and Cognition* に2014年に掲載された Reading English with Japanese in mind: Effects of frequency, phonology, and meaning in different-script bilinguals です。バイリンガル研究で有名な Dijkstra や形態素研究・言語統計

処理研究で有名な Baayen との共著論文です。これまでの言語実験では、刺激や被験者の条件を統制していましたが、線型混合効果モデル(linear mixed effects model)を使うことで、複数の要因を同時に検討することを試みた研究です。ぜひこの機会に三輪先生の新しいアプローチによる研究を聞いてみてください。この論文は、三輪先生のHPの <http://www.kojimiwa.com/Publications.html> からダウンロードすることができます。

講演内容:

単語が視覚的に認識される際、そのプロセスは特定の視覚的刺激に対応する特定の単語表象のみを頭の中で活性化させる選択的なものではなく、書字・音韻・意味の似た複数の候補を活性化させる非選択的なものだということが分かっている。さらにバイリンガルの場合、二言語ともに非選択的メカニズムの対象になることで、単語の認識プロセスは量的また質的に複雑なものとなる。その複雑化に対処するためには実験手法、分析手法、理論的枠組の全てにおいて、既存のアプローチを再考してみる必要がある。本発表では、眼球運動追跡を加えた日英バイリンガル単語認識研究 (Miwa, Dijkstra, Bolger, & Baayen, 2014, *Bilingualism: Language and Cognition*) を中心に、(1) 単語認識研究における眼球運動追跡の有効性、(2) 心理言語学研究における線型混合効果モデルの有効性、(3) バイリンガル交互活性化モデル (BIA+, Dijkstra & Van Heuven, 2002) の日英バイリンガルへの発展の可能性について考察する。

場所：名古屋大学東山キャンパス・全学教育棟・北棟 405 号室

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/> (地図の B4 の位置にある建物の北棟の4階)

講師：三輪晃司 (MIWA, Koji) 名古屋大学非常勤講師

日時：2015年1月20日(火曜日)、午後6時15分時から午後7時45分まで (90分)

参加：自由、無料。

連絡先：名古屋大学・教授 玉岡賀津雄 (TAMAOKA, Katsuo)

ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp

講演内容の論文:

Miwa, K., Dijkstra, T., Bolger, P., & Baayen, R. H. (2014). Reading English with Japanese in mind: Effects of frequency, phonology, and meaning in different-script bilinguals. *Bilingualism: Language and Cognition*, 17(3), 445-463.